

## 1. 都市再生整備計画事業の目的と制度の特徴

都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを総合的に支援し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的としています。

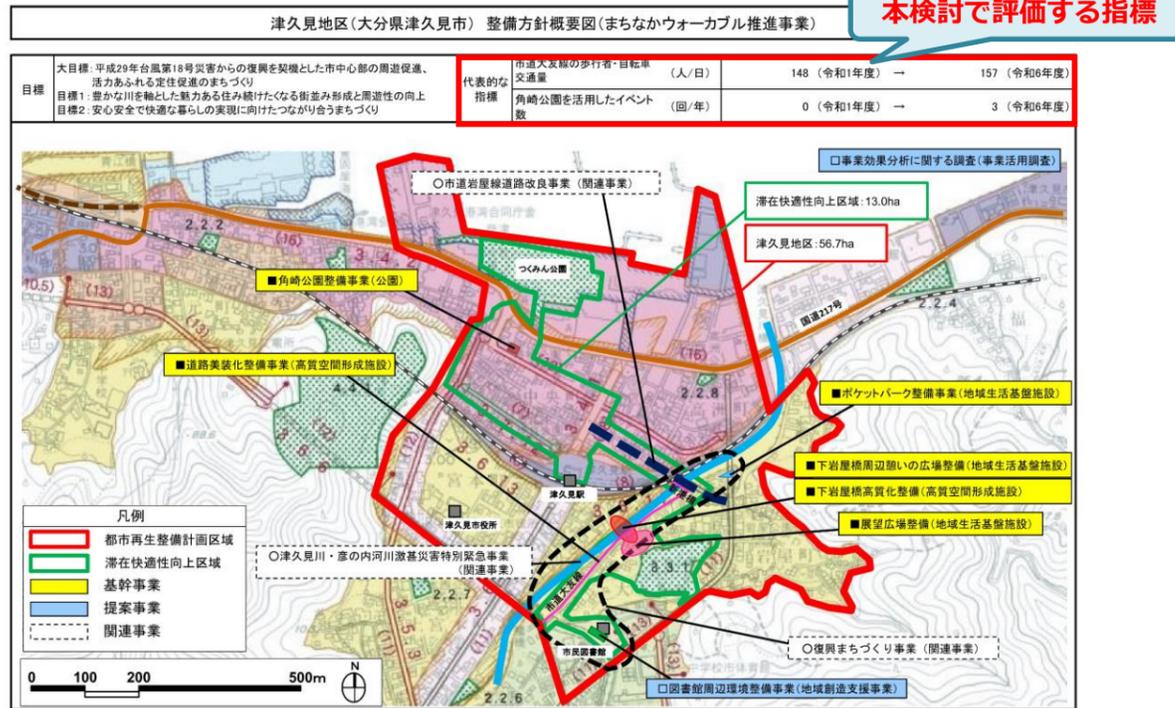
市町村が都市再生整備計画を作成し、都市再生整備計画に基づき実施される事業費等の費用を一つの交付金として交付されるものであり、自由度が高く、創意工夫を生かせる交付金です。

交付期間終了後には、事後評価を実施し、その結果を公表することが必要となります。



## 2. 津久見地区都市再生整備計画の概要

- 計画期間：令和2年度～令和6年度（5年間）
- 目標：大目標 水害からの復興を契機とした市中心部の活力あふれる定住促進のまちづくり  
 目標1 豊かな川を軸とした魅力ある住み続けたい街並み形成と周遊性の向上  
 目標2 安心安全で快適な暮らしの実現に向けたつながり合うまちづくり
- 目標指標：市道大友岩屋線(旧市道大友線)の歩行者・自転車の通行量、角崎公園を活用したイベント数
- 計画概要：



## 3. 津久見都市再生整備計画における事業の実施状況

事業の実施状況について、基幹事業・提案事業の整備効果を示します。

各事業の整備効果

### ■ 角崎公園整備事業(基幹事業)



### ■ ポケットパーク整備事業(基幹事業)



### ■ 下岩屋橋周辺憩いの広場整備(基幹事業)



### ■ 道路美装化整備事業(基幹事業)



■ 展望広場整備(基幹事業)



■ 図書館周辺環境整備事業(提案事業)



各事業の整備効果

5. 成果の評価 数値目標の達成状況

成果の評価にあたっては、数値目標である「市道大友岩屋線(旧市道大友線)の歩行者・自転車の通行量」及び「角崎公園を活用したイベント数」を評価する必要があります。

① 市道大友岩屋線(旧市道大友線)の歩行者・自転車の通行量における評価値(R6)の算出方法

計測方法は、令和6年11月24日(日)、令和6年11月25日(月) 6時~19時(13時間)の時間帯において、調査員を配置し、カウンタで計測して把握します。また、2日間の合計交通量を1日平均人数に換算して従前値を算出した値を評価値とします。基本的には当初現況値の算出方法と整合を図っています。



令和6年11月24日(日)・25日(月)に実施した現地調査風景

指標	当初現況値(R2)	最終目標値(R6)	評価値(R6)
市道大友岩屋線(旧市道大友線)の歩行者・自転車の通行量(人/日)	148	157	236

調査結果は目標達成

② 評価値(R6)の達成状況と評価

最終目標値157人/日に対して今回の調査(R6)の評価値は236人/日と達成しています。特に、下岩屋橋の通行量は、前回調査結果(R1)と比較すると増加しており、橋の整備効果が表れていると判断できます。また、前回の調査結果(R1)と比較すると、季節による外出頻度の変化も想定されますが、歩行者の通行量が自転車の通行量を上回る又は近似した結果が把握できており、下岩屋橋高質化整備や市道の美装化は歩いて暮らせるまちの形成に寄与しています。

4. 津久見都市再生整備計画に示す数値目標

都市再生整備計画では、定量的な目標指標として、「市道大友線(旧市道大友線)の歩行者・自転車の通行量」、「角崎公園を活用したイベント数」を位置づけており、事後評価ではこの数値を評価する必要があります。

本検討で評価する指標

指標	定義	目標と指標及び目標値の関連性	当初現況値(R2)	最終目標値(R6)
市道大友岩屋線(旧市道大友線)の歩行者・自転車の通行量(人/日)	住みやすい環境整備による回遊性の向上、にぎわいの創出により計画区域内の歩行者を増加させる。	魅力的な空間の創出により、新たな人の周遊を促し、計画区域内への流入人口の増加が期待できる。	148	157
角崎公園を活用したイベント数(回/年)	各企業等による周辺計画に合わせて、魅力的な公園空間の創出により、公園を利用したイベントを増加させる。	豊かな生活の実現に向けて、地域住民が集える公園空間の創出を図り、にぎわいづくりに寄与する。	0	3

① 角崎公園を活用したイベント数における評価値(R6)の算出方法

角崎公園整備後の令和4年度から令和6年度で実施した、角崎公園を活用したイベントの実施回数を担当課で確認し、その値を評価値とします。

指標	当初現況値(R2)	最終目標値(R6)	評価値(R6)
角崎公園を活用したイベント数(回/年)	0	3	4

調査結果は目標達成

② 評価値(R6)の達成状況と評価

最終目標値3回/年に対して評価値(R6)は4回/年と達成しています。角崎公園整備事業の実施により、各企業等と連携したイベント場所として活用を進めることができ、にぎわいの創出に寄与しています。



6. 実施過程の評価

都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況や計画に位置づけた事業が実施できたか評価するだけでなく、その結果に至るまでの実施過程を検証することも重要です。

■ 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
復興まちづくり事業【関連事業】 (津久見復興・街なかなぎやかプロジェクト事業)	予定どおり実施した	令和元年度～令和3年度の3ヶ年で実施した関連事業 令和元年度 ○図書館周辺におけるWSと環境整備 ○スイーツ&防災マップ ○移住定住コーディネート支援	復興まちづくり事業は令和3年度に完了している。 引き続き、地域住民・事業者・団体等の多様な関係者と連携し、整備した都市基盤を活用した取組を推進する。
	予定はなかったが実施した	令和2年度 ○図書館周辺におけるWSと環境整備 ○津久見川周辺の回遊を促すための大友公園の拠点整備	
	予定したが実施できなかった	令和3年度 ○津久見川を中心としたワークショップやイベント等の実施 ○津久見川周辺における桜などの樹木の植樹等とその周辺整備	

7. 効果発現要因の整理

本計画の2つの指標(市道大友岩屋線の歩行者・自転車の通行量、角崎公園を活用したイベント数)について、どの事業の実施により指標達成に大きく貢献したのか、各事業との関連性や事業実施による効果を整理します。

事業名	指標 市道大友岩屋線の歩行者・自転車の通行量		指標 角崎公園を活用したイベント数	
	指標との関連	効果発現要因の整理・考察	指標との関連	効果発現要因の整理・考察
公園：角崎公園整備事業(角崎公園)	—	下岩屋橋の整備や市道大友岩屋線の整備、津久見川の河川改修、ポケットパークの整備等の様々な事業を総合的に実施したことによる	◎	角崎公園の整備とあわせて、自家用自動車協会建屋解体工事を進めたことにより、
地域生活基盤施設：ポケットパーク整備事業(ポケットパーク)	○	質の高い道路・河川空間の形成が実現し、歩行者・自転車の移動が増加し、回遊性が高まっている。 また、これらの事業を進めるにあたっては、地域住民・事業者・行政等の多様な関係者が整備前から関わってきたことにより、地域の身近な場所として愛着が生まれ、利用促進につながったと考えられる。	—	一体的な空間としての活用が可能となったことがイベントの利用促進に大きな効果があったと考えられる。
地域生活基盤施設：避難広場整備事業(展望広場)	○			
地域生活基盤施設：下岩屋橋周辺憩いの広場整備事業(下岩屋橋周辺広場)	◎	今後も整備した角崎公園の活用を促進する取組に努め、賑わいの創出を図る。	—	今後も整備した角崎公園の活用を促進する取組に努め、賑わいの創出を図る。
高質空間形成施設：道路美装化整備事業(市道大友岩屋線)	◎			
高質空間形成施設：下岩屋橋高質化整備事業(下岩屋橋)	◎	今後も整備した角崎公園の活用を促進する取組に努め、歩いて暮らせるまちづくりを推進する。	—	—
提案事業 図書館周辺環境整備事業(図書館前)	○	—	—	—
関連事業	津久見川・彦の内川河川激甚災害特別緊急事業	◎	—	—
	市道大友岩屋線道路改良	◎	—	—
	復興まちづくり事業	○	—	—

8. 今後のまちづくり方策

今後のまちづくり方策の作成は、都市再生整備計画に位置づけたまちの現状や課題について、事業を実施したことによる改善状況、未解決の課題、まちの変化に伴い発生した新たな課題を整理した上で、各方策を検討します。

① まちの課題の整理

事業前の課題	土地利用・景観	道路・歩行空間	コミュニティ	河川空間
事業前の課題	○駅前商店街は空家・空店舗の増加、家屋の老朽化に伴う解体により空地の増加など、都市のスポンジ化が進行	○つくみん公園から大友公園や津久見市民図書館までの間に中心部において歩いて楽しめる周遊環境の形成が必要	○近年、ご近所付き合いの希薄化等によりコミュニティが徐々に喪失	○津久見川は市中心部を流れる河川であり、河川空間の魅力向上が地域の愛着の醸成につながる
	○街並みの中に住宅が無造作に立ち並ぶことにより一体性の無い景観	○市内の主要道路で歩道が無く、安心安全な歩行者空間の整備が必要	○人が集い、必然的にコミュニケーションが生まれる魅力的な憩いの空間形成が必要	

課題の改善状況	土地利用・景観	道路・歩行空間	コミュニティ	河川空間
課題の改善状況	○創業支援や企業立地促進に関する助成や空家除却に関する助成、空家バンクの登録による成約等に努めている	○市道大友岩屋線の整備、新港橋や下岩屋橋の整備により、安全で歩きたくなる歩行者空間の形成を図っている	○角崎公園や津久見川を中心としたイベントの実施により、地域コミュニティの場やコミュニケーションの機会を創出している	○津久見川の河川改修を進めてきたことにより、安全性や景観が向上した河川空間の創出を図っている

残された課題	土地利用・景観	道路・歩行空間	コミュニティ	河川空間
残された課題	○各種補助制度による支援に努めているが、件数は少ない状況にある 空家・空地・空店舗による都市のスポンジ化は今後も進行すると考えられるため、更なる対策が必要である	○市中心部と津久見川・津久見市民図書館を結ぶ歩行者の動線において、現状は歩道が無い状況にある	○角崎公園や津久見川のイベントを実施してきたが、今後も継続的なイベント等を開催し、公園・河川の活用を図りながら地域コミュニティを醸成していく必要がある	

新たな課題
今後、新庁舎の整備や街なか観光拠点の整備を予定しており、都市構造が変化することが考えられる。津久見港側(津久見市役所新庁舎・街なか観光拠点・つくみん公園等)、市中心部(駅前商店街・JR津久見駅等)、津久見川・津久見市民図書館等の各エリアを繋ぐ歩行者ネットワークを検討するなど、沿道土地利用を踏まえつつより一層、市街地内の一体感を高めていく必要がある。

② 今後のまちづくり方策

整備効果を持続させるために行う方策

整備した施設の利活用促進

【まちづくり方策の考え方】

津久見川・津久見市民図書館や角崎公園などを利活用したイベントの開催や憩いの場としての更なる魅力の向上に向けて取り組むことにより、日常的な利用促進や賑わい創出による地域コミュニティの活性化につなげ、整備効果を持続的なものとします。

【まちづくり方策】

- 津久見川・津久見市民図書館・角崎公園等におけるイベントの創出、地域団体や民間事業者等が主体となった活動に対する支援、地域住民等との協働体制の構築などの仕組みづくり
- 各都市施設の適切な維持管理や更なる魅力の向上による利用促進
- 大友公園・展望広場における避難訓練等のソフト対策の実施や歴史・文化資源としての保全と利用促進
- 地域住民等のニーズを把握した更なる利活用策や改善策の検討

各エリアをつなぐ歩行者ネットワークの強化

【まちづくり方策の考え方】

今後、津久見市役所新庁舎や街なか観光拠点等の整備を予定している中で、都市構造の変化に対応しつつ、市中心部である駅前商店街・JR津久見駅、津久見川・津久見市民図書館の各エリアをつなぐ歩行者ネットワークを強化し、歩いて暮らせる回遊性の高いまちづくりを推進します。

【まちづくり方策】

- 津久見港側(津久見市役所新庁舎・街なか観光拠点・つくみん公園等)と市中心部(駅前商店街・JR津久見駅等)における歩行者ネットワークの強化
- 国道217号によるエリアの分断を解消するため、津久見港側と市中心部を繋ぐ主要動線の整備による一体的な空間づくり(JR津久見駅前環境整備や駅舎のバリアフリー化、舗装やサイン等の整備、空家や未利用地の利活用、交差点整備など)の検討
- 都市再生整備計画によるみなとオアシス津久見周辺地区の事業推進



都市構造再編集中支援事業の整備イメージ

残された課題と新たな課題を解決するために実施する方策

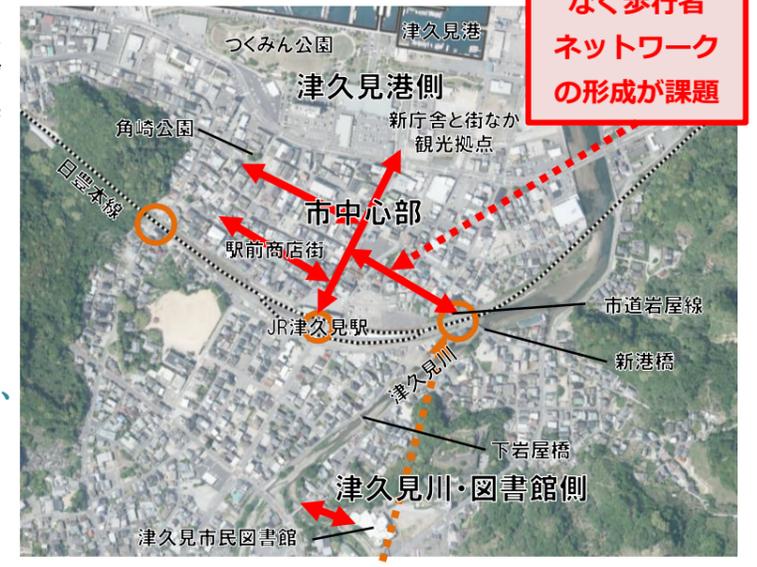
残された課題と新たな課題を解決するために実施する方策

各エリアをつなぐ歩行者ネットワークの強化

【まちづくり方策の考え方】※左記と同様

【まちづくり方策】

- 市中心部(駅前商店街・JR津久見駅等)と津久見川・津久見市民図書館等における歩行者ネットワークの強化
- 市道岩屋線道路改良(関連事業)等に関連して質の高い歩行者空間の整備
- 市中心部、津久見港側、津久見川・図書館側・宗麟公園側等を一体的に考えた誘導サインや回遊マップ等の設置、レンタサイクルの活用
- 踏切の改修等の検討
- 市道大友岩屋線と津久見図書館を繋ぐ歩行者動線の整備
- 駅前商店街や角崎公園等の歩行者空間における景観整備



各エリアをつなぐ歩行者ネットワークの形成が課題

鉄道により通り抜けできる箇所が限定されることにより市街地が分断され、周遊性や回遊性が課題

都市のスポンジ化対策の強化

【まちづくり方策の考え方】

○都市再生整備計画エリア内において、空家・空地・空店舗等の低未利用地が増加する中で、令和5・6年度は企業立地や創業支援に関する助成、空家バンク成約件数・空家除却件数が少なく、伸び悩んでいる状況にあります。そのため、これらの制度活用に向けた広報活動や周知・啓発に関する取組の強化により、良好な土地利用の形成に努めます。

【まちづくり方策】

- 企業立地促進・創業支援事業補助金、津久見市危険空き家等除却事業補助金等の補助制度の活用促進に向けた周知・啓発
- 空き家バンクの登録と成約を継続して推進
- 空き地バンク(ランドバンク)制度の新設
- 立地適正化計画に基づく立地誘導促進協定や低未利用土地権利設定等促進計画の導入検討

津久見地区内の件数(単位:件)		R2	R3	R4	R5	R6
創業支援補助金		1	2	5	0	1
企業立地促進に関する助成	住宅整備	0	0	0	0	0
	設備投資、雇用促進	1	0	0	1	0
空き家バンク登録数		2	2	3	1	3
空家バンク成約数		0	2	1	1	0
空家除却補助件数		1	2	1	0	0

都市のスポンジ化対策に繋がる事業の実施状況(計画期間内)